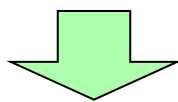


# 大田原市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年11月～26年3月)

## 【中心市街地を巡る状況】

- 江戸時代に城下町、旧奥州街道の宿場町として発展。
- 環状道路の整備（平成16年全面開通）に伴う沿道の商業施設の集積等により、人口流出、大型店の撤退等空洞化が進行。
- 特に、後継者不足や狭隘な歩道等に起因する中央通り沿道の衰退が顕著（空き店舗率27.3%）。

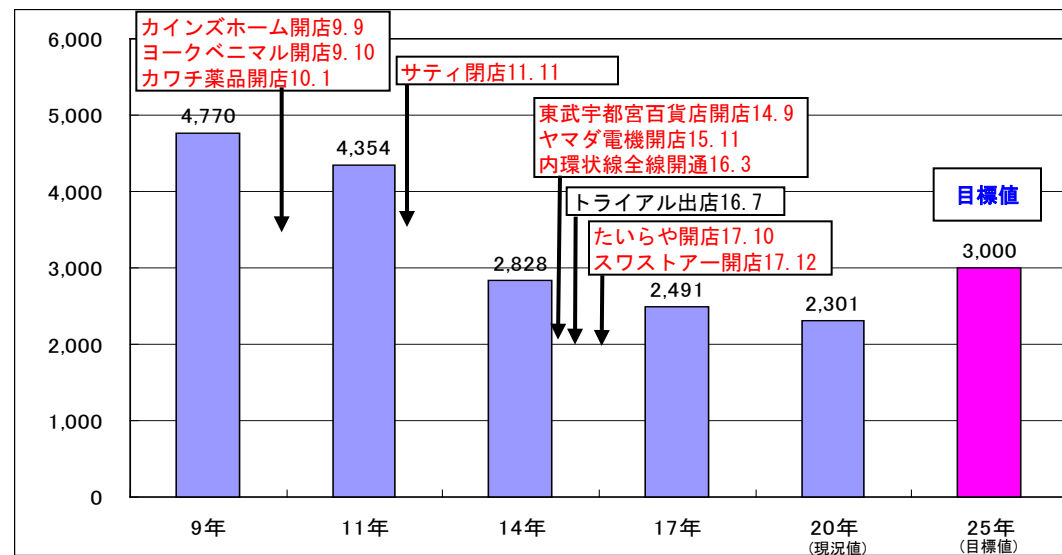


- 歩行者・自転車通行量  
H9：4,770人→H20：2,301人(▲51.8%)
- 定住人口  
H9：3,756人→H19：3,104人(▲17.4%)
- 小売業年間小売販売額  
H9：20,763百万円→H19：11,017百万円(▲46.9%)

## 【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H25)
「多様な市民活動の更なる集積と発信による賑わいの創出」	歩行者・自転車通行量(休日・8地点)	2,301人(H20)	3,000人
「ひとにやさしい」街なか居住の推進	定住人口	3,104人(H19)	3,150人
「地域特性を踏まえた商業の振興」	小売業年間商品販売額	11,017百万円(H19・推計)	12,000百万円

## 【歩行者・自転車通行量の動向と数値目標】

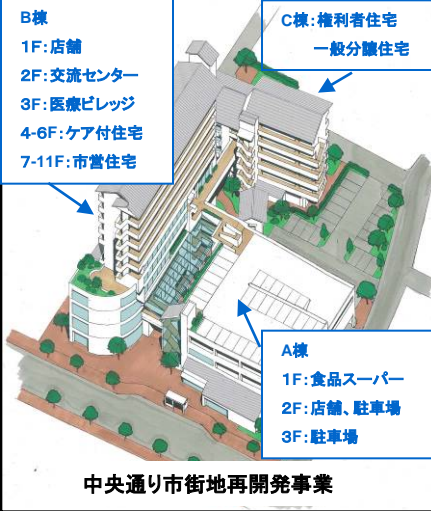


歩行者が利用し易い「中央通り」と、その沿道の住宅・商業施設の整備を一体的・重点的に行うとともに、「蔵」「金燈籠」「屋台」といった地元の歴史資源の活用による来街者の回遊促進や、地元の医療福祉大学と地域住民との交流等を通じ、まちの賑わいを再構築する。

# 大田原市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## ひとにやさしい街づくりの推進

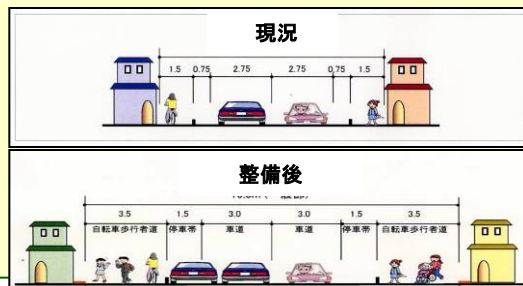
○老朽化・空き店舗化した中央通り沿い商業地に、市営住宅、高齢者に配慮した**ケア付き住宅**、**8つの診療科目を持つ医療ビレッジ**、**食料品スーパー等の商業施設**を導入した再開発ビルを整備し、居住者や近隣住民の利便性の向上を図る。



○**廃園となった保育園を活用し子育て支援の拠点としての再構築**を図る。  
○**空き店舗を活用し、近隣に立地する国際医療福祉大の協力を得て、地域住民の健康づくり支援を行う「まちなか保健室」**を開設する。



○歩道が狭隘なため歩行者の通行に危険が伴い、まちの衰退の要因となっていた中央通りについて、沿道の**再開発と一体**に歩道の拡幅、停車帯の新設及び電線類の地中化により**歩行者が安全に歩行可能な環境を整備し、目抜き通りとして再構築**する(黄線部分)。



中心市街地: 約90ha

大田原赤十字病院  
(H25頃郊外移転予定)

## 地域特性を踏まえた集客力の向上



荒町パティオ事業・駐車場整備事業

○**空き蔵を活かした店舗や「蔵」風の店舗を整備**すると共に**来街者等のため駐車場を整備**する。

○**空き店舗を活用し、活躍する経営者等を講師とした講座の開催、チャレンジショップの提供、とうがらし等名産品のアンテナショップ**に対する支援を行う。

○**空き店舗を活用し、国際医療福祉大生が地域の拠点として運営するカフェ**を拡充する。



多目的公園整備  
(JT跡地)

— 線及び — 線(事業実施部分): 中央通り(国道400号線)

⋯ 線: 市内循環バス実験事業

※掲載されている各事業の他、中央通り沿い各地区について再開発等の検討を実施。

## 歴史や文化に触れ合える街づくりの推進

○旧奥州街道における物資の集散に利用されてきた**「蔵」**について、新たに3つの**空き蔵を活用し、市民活動、伝統工芸品等**地元のPRを行う拠点の整備を行う。



○**交差点改良により生じる空き地**を利用し、祭りの**屋台(山車)の展示**とともに、**イベントの開催**が可能な施設を整備する。



○**七福神巡りの寺社や名産のとうがらし商品取扱店等を回遊できるように、回遊路の整備**を行う(紺線部分)。

○中心市街地のシンボルである**金燈籠**を活かした**市民の交流の場(ポケットパーク)**を整備する。

